

プログラム名	現代世界建築を展望するー4	認定CPD	2単位
開催日	2019年11月8日（金） 18：10～20：10		
開催場所	ウィンクあいち 1201大会議室（名古屋市市中村区名駅4丁目4-38）		
講師	建築ジャーナリスト 淵上正幸氏		
担当理事	企画委員会 代表理事 西井信幸	その他	
参加者	NSK会員及びその所員39名、一般46名 計85名 二次会 24名（NSK関係13名、一般9名、スポンサー2名） スポンサー企業10名、合計95名（定員100名）		
備考	協賛/後援（公社）愛知建築士会、（公社）愛知県建築士事務所協会、 （公社）日本建築家協会 東海支部愛知地域会		

淵上講演会も今年で第10回、10年目の記念すべき回であった。演題は『現代世界建築を展望するー4』であるが、正確には第1回目から世界の最先端のデザインを名古屋に紹介するという講演会なので、『展望する10』かもしれない。参加者はリクシル様を含めて95名で、空席が5名のみという大盛況のうちに終了した。又、二次会参加者は24名であった。

講演内容は現代世界で話題となる建築家10名の作品であり、その中で4名の作品を解説する。トーマス・ヘザーウィックはニューヨークの広場の中心でハチの巣形の踊り場と階段だけの構築物からエッシャーの階段をイメージさせ大変人気である。

フランシーヌ・ハウベンはかつてのメカノーを率いた女性である。台湾の高雄に出来た国立高雄芸術センターは延床14.0万㎡も巨大な施設であるが、一部のホールは屋外劇場として外部に露出している。内部は約4つの構造体であるコンサートホールからなり、公園をそのまま取り込むエイのひれのように屋根が布のように特徴的に波打つ形である。

MVRDVは中国で今話題の外から目のように見える天津大図書館を設計した。ストックホルム図書館を彷彿とさせる円形内部の図書館は、手の届く部分は本物の蔵書で、上部は画像の本を用いフェイクとなっている。又、内部にオーディトリウムを併設している約4万㎡の施設である。

クリストフ・インゲンホーフエンは日本では森ビルの虎ノ門ヒルズを設計し、今や世界中にサステナブル建築家として知られている。シンガポールに完成した建物は超高層オフィスビルと3,000人の集合住宅を繋ぐ中庭に緑のハートをデザインした建築である。これらの緑は実際に熱帯雨林の野生の樹木と動物（猿や鳥等を放し飼い）を用いた自然の職住近接都市である。

その他紹介された建築家はペリ・クラーク+ペリアーキツ、ロジャース・スターク・ハーバート+パートナーズ、ビヤルケ・インゲルス、レム・コールハース+パートナーズ、ステイブ・ホル、ヘネン・パアン・アーキツの6名である。以上、常に最先端の建築を紹介してくれる淵上氏の講演会も前述のとおり10年目を迎えた。今年でいったん一区切りとしつつ、新たなスポンサーによる来年以降の開催継続を計画している。

【会場風景】

